浜中町立茶内小学校「学校だより」

THE　茶内小　TIMES

令和４年（2022年）11月28日発行　VOL 35

大人こそ学び続ける

浜中町立茶内小学校長　冨　田　直　樹

学習指導要領では、新しい時代に必要となる資質・能力として「３つの柱」が示されています。「①生きて働く知識・技能の習得」、「②未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」、「③学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養」です。このうち、「学びに向かう力」には、非認知スキル（例えば、協調性、コミュニケーション力、やり抜く力、忍耐力、計画性、自制心、意欲など）など、様々なものが含まれていますが、中でも「学び続ける力」が重要視されています。

学習指導要領の改訂に携わったキーパーソンの一人である白梅学園大学学長の無藤隆氏（当時、中央教育審議会教育課程部会長）は、次のように述べています。

必要になる教育の在り方は、「学び続ける力を身に付けること」だといえよう。社会の変化に応じて、何をどのように学んでいくのかを自ら主体的に考え、自ら未来を創っていく力こそ、2030年の社会で求められる力なのである。大事なところは、学校教育で学べば、それを使って一生やっていけるというモデルを捨てようとしているということにある。これは、学校教育のその先にも学びがずっとあるということなのである。

無藤氏が述べている「学校教育で学べば、それを使って一生やっていけるというモデルを捨てようとしている」とは、例えば、次のようなことだと思います。

パソコンで、いまだに Windows 98 などを使っている人はいないと思います。OS もアプリも更新していかなければなりません。そのときに大事なことは、古いものは削除し、導入前の状態に戻したり、整理したりする必要があるということだと思います。

これは、子どもたちだけではなく、むしろ、私たち大人に当てはまるのではないでしょうか。これまでの経験値や蓄積が通用する場面もありますが、時には、社会の変化や相手の状態によっては、それらを一度削除し導入前の状態に戻したり、大幅に更新したりしないといけません。

ただし、これが思ったほど簡単ではありません。ついつい私たち大人は、これまでのやり方や考え方から離れることを恐れてしまいがちです。これまでのやり方や考え方のままではうまくいかない、そういうときに、どんな行動を取れるのかが、その人の正念場ということになるのではないでしょうか。

学習指導要領に示されている資質・能力を全ての子どもたちに身に付けてもらいたい、と大人が思うのは自然な気持ちです。しかし、「では、大人はどうなの？できているの？」と子どもたちから聞かれたら、どう答えたらよいでしょうか。

私を含めて、保護者の皆さん、地域の皆さん、最近、どんな勉強をしているでしょうか。どんな本を読んでいるでしょうか。学んでいる姿を子どもに見せているでしょうか。学び続けることの大切さや面白さを子どもに伝えているでしょうか。私たち大人が率先すべきことも多いように思います。